

2019年3月4日 キレる人が横行？

※一言要約： 仕事の中でも、我慢して協調することも必要！

最近、心が痛むニュースは、児童虐待、パワーハラスメント、あおり運転、不適切動画投稿など、冷静に考えると一線を越えてしまっているものが多すぎる。日本人は、いったいどうなっているのでしょうか？ それぞれの理由としては、しつけ、業務指導、注意喚起、愉快・憂さ晴らしなどが挙げられますが、それぞれは一線を越え、単に“キレた”だけではないのでしょうか？

キレるとは、主に対人関係などにおいて昂ぶった怒りの感情が、我慢の限界を超えて一気に露わになる様子を表す、日本の俗語。同義の言葉には「激昂」「激高」などがある。
(Wikipedia)

自己中心的考えで、自分の意にそぐわなければ、怒る、激高しているだけと思われれます。簡単に一線を越えないように、深呼吸をしてみたり、一拍間を取るなどの努力はしたいものです。

確かに、我慢が美德の時代は終わりましたが、全く我慢する必要がなく、自己中心的な自己主張が横行するのは、迷惑の極みです。少しは、我慢することが必要ではないでしょうか？ 社会生活の中では。

いずれの場合も、加害者に自覚がなく指導などと思いこんでいるケースが多く、対処法としては、記録(映像や音声など)を残し、行政機関など外部への告発が有効と考えられます。事実(現実)を加害者に認めさせることが必要なのです。